

玉川村人口ビジョン(改訂版)・たまかわ創生総合戦略 概要

I 玉川村人口ビジョン

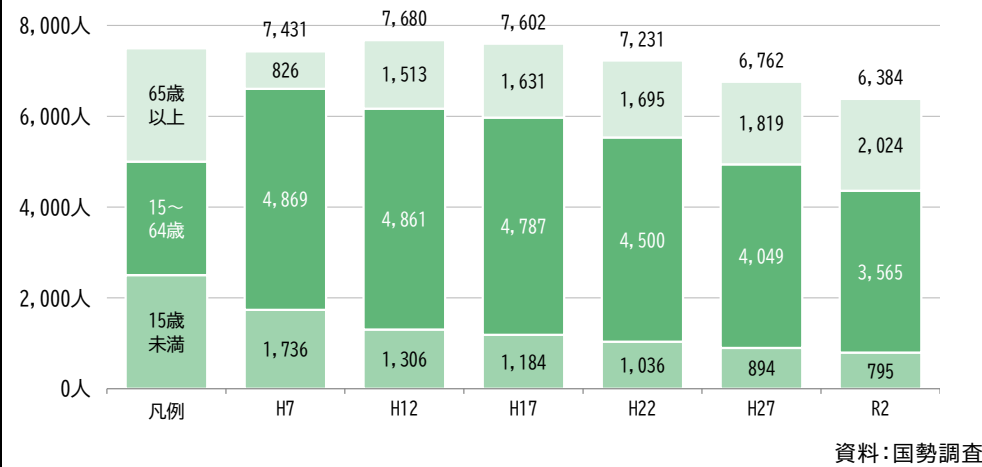
本村では中長期的な人口減少が与える様々な影響を分析し、村民・地域・民間・行政が一体となって地域づくりを進めるため、本村の人口減少抑制に向けた取り組みの視点と今後の目指すべき人口の将来展望を示すため、「玉川村人口ビジョン」を改訂します。

第1章 | 玉川村の“いま”

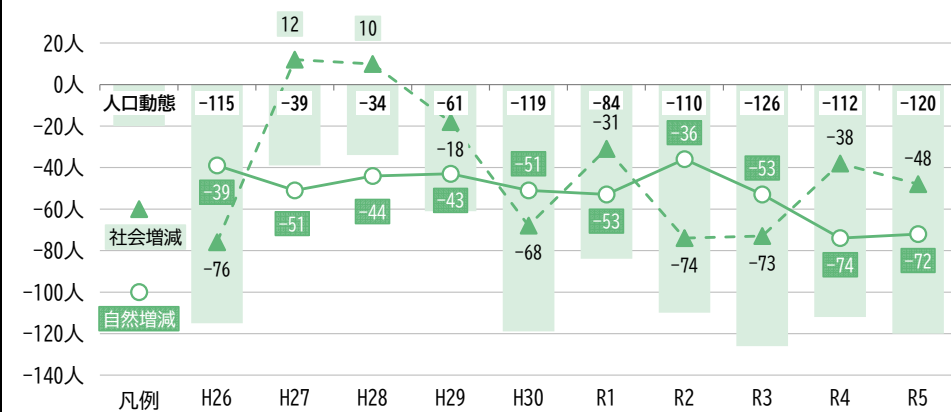
本村の人口は、平成12年以降減少しており、年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向にある一方、老年人口(65歳以上)は増加しており、平成12年には老年人口が年少人口を上回っています。

また、自然動態では令和3年以降自然減が拡大し、社会動態では平成29年以降転出超過による社会減が続いています。

■総人口及び3区分別人口の推移



■人口動態の推移(自然動態・社会動態)



第2章 | 玉川村の“これまで”

① ひと・住まい

- ・平成12年に老年人口が年少人口を上回り、人口減少が進行。
- ・平成29年より自然減・社会減も拡大。
- ・本村は『住みやすい』という回答が7割台、定住意向も7割後半。
- ・高校生世代からは「村外に移り住んでも村と関わっていたい」という回答が半数以上。

村民が住み続けたい、外に転出しても戻ってきたいと思えるよう、村民の思いを把握・分析しながら、村民とともにまちづくりを進めていくことが重要です。

② 結婚・出産・子育て

- ・未婚率は平成27年と令和2年を比較して、男性・女性いずれも20代でやや上昇。
- ・合計特殊出生率は年々低下し、平成20年以降は県とほぼ同割合。
- ・女性の就業率では、結婚や出産を機に離職することで発生する「M字カーブ」が緩やか。
- ・未婚者の結婚希望について20～40代では「いずれ結婚したい」や「わからない」という回答が半数以上、結婚に向けて住まいや経済的な支援が求められている。
- ・理想的なこどもの数については「3人」という回答が多く、こどもを預けるための施設やサービスの充実が求められている。

就労状況の変化や教育・保育へのニーズの多様化も踏まえつつ、安心して結婚・子育てができる環境を整えていく必要があります。

③ 産業・雇用

- ・農業・林業において、就業者の高齢化が顕著。
- ・村内就業率は43.4%と石川郡内で最も低く、村外で就業する本村在住者が、村外在住で本村に就業する者を上回っている。
- ・高校生世代の4割以上が戻ってきたいと回答、村内での就業に向け、企業情報などの情報発信や就労先の確保・整備などが求められている。
- ・村の産業や就労に関する取り組みについて満足度が低い一方で、重要度が高い。

今後も村内における産業の活性化を図っていくため、村内企業とも連携しながら必要な情報の発信や就労環境の整備にかかる支援を行っていくことが重要です。

④ 魅力ある地域づくり

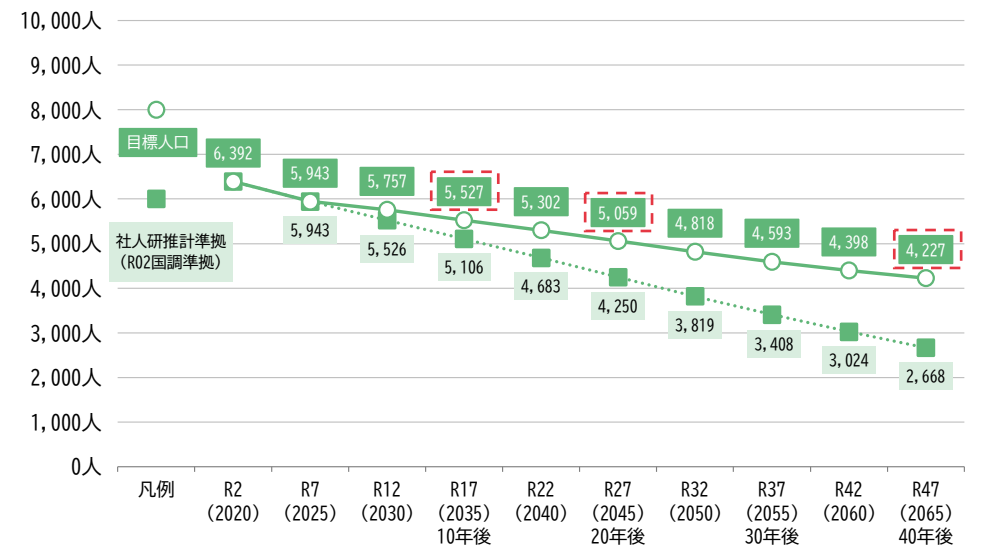
- ・観光コンテンツの整備などにより、観光客が大きく減少することなく、ほぼ横ばいで推移。
- ・デジタル技術の導入またはデジタル化について『取り組むべき』との回答が7割を超え、特に教育分野や福祉分野において充実が求められている。

必要に応じてデジタル技術の導入も検討しながら、村外の人々が本村に魅力を感じ、「玉川村でなら理想の生活を実現できる」「玉川村に移り住みたい」、村民など誰もが「玉川村で自分らしい生活を送ることができる」「いつまでも玉川村に住み続けたい」と感じることができる、魅力ある地域づくりを進めていくことが重要です。

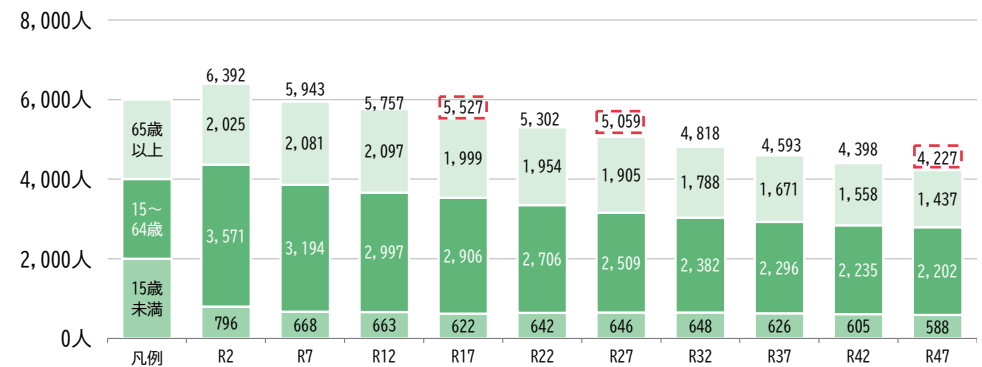
第3章 | 人口の将来展望

本村では、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」、県の「ふくしま創生総合戦略」を踏まえつつ、出生率の上昇・子育て世代、若者を中心とした移住・定住の促進など、人口減少の克服に向け、「たまかわ創生総合戦略」において各分野の施策を総合的に推進し、令和17年(2035年)に約5,500人、令和27年(2045年)に約5,000人、令和47年(2065年)に約4,200人を維持することを目標とします。

■目標人口



■年齢3区分別人口の推移



令和27年(2045年)に約5,000人の達成



Ⅱ たまかわ創生総合戦略

この度、村政の最上位計画である「第6次玉川村振興計画」の計画期間満了に伴う見直しに先立ち、現在の本村の人口動態や就業状況の変化などを勘案して新たな将来の人口展望を示した「玉川村人口ビジョン」を実現するため、「たまかわ創生総合戦略」を策定します。

第1章 | 地域ビジョンの設定

本村の総人口は平成 12 年以降減少し、平成 27 年には 6,000 人台となるとともに、令和2年には高齢化率が 31.7%となるなど、全国的な傾向と同様に人口減少・少子高齢化が進行しています。さらに、社会構造の変化や村の姿が大きく変容する阿武隈川上流遊水地群の整備などにより、地域課題はより複雑化しつつあります。

本村は、県内唯一である福島空港を有し、あぶくま高原道路や JR 水郡線も通っていることから交通の利便性に恵まれています。また、阿武隈山系特有の起伏の多い地形や豊かな里山、一級河川である阿武隈川などの豊かな自然環境を有し、それらを活かした農業やアクティビティが盛んです。

さらに、旧須釜中学校を改修した「すがまプラザ交流センター」内にコワーキングスペースなどを設置し、新しい働き方に対応した施設の整備や「森の駅 yodge」における体験型宿泊、「乙な駅たまかわ」での新産業の創出などにより、交流・関係人口の創出・拡大に向けた取り組みを進めています。

本村の強みや歴史・文化を引き継ぎながら、これまでの取り組みを踏まえ、デジタル技術などの新しいツールも取り入れ、村外の人が本村に魅力を感じ、「玉川村でなら理想の田舎暮らしを実現できる」「玉川村に移り住みたい」、村民など誰もが「玉川村で自分らしい生活を送ることができている」「いつまでも玉川村に住み続けたい」と感じることができるよう、「豊かな自然・ほどよい田舎で実現する自分らしい『玉川くらし』」を地域ビジョンとします。

地域ビジョン

豊かな自然・
ほどよい田舎で実現する
自分らしい『玉川くらし』



第2章 | 施策の展開

基本目標1 選ばれる村づくりプロジェクト



観光やオンラインを活用した交流事業なども積極的に活用し、魅力あふれる「玉川村」をPRするとともに、本村に「訪れる人」「興味を持つ人」を増やし、交流・関係人口の拡大を目指します。

■数値目標

項目	基準値(R5末)	目標値(R11)
社会増減	△40人 (単年)	±0人 (単年)
玉川村に關係する人口	-	1,500人 (単年)
玉川村における交流人口	-	270,000人 (単年)

① 移住・定住の促進

具体的な施策	
(1) UIJ ターンの推進・誘導	(2) 居住環境の確保・整備

② 交流人口と関係人口の拡大

具体的な施策	
(1) 観光資源の確立と PR 強化	(2) 観光産業支援
(3) 空港周辺と東西観光交流拠点の創出	(4) 多様な人々の「関わり」の創出

基本目標3 共に生きる村づくりプロジェクト



近年は、共働き世帯が増加傾向にあることから、仕事と子育てを両立するための保育環境の整備や家庭での家事負担の軽減などに関する支援を実施し、子育て世代の誰もがいきいきと活躍できる社会を目指します。

また、地域資源を活かした特色のある授業やICT教育の実施などにより教育の充実を図るとともに、地域全体でこどもを見守り育てる体制を整備し、シビックプライドを醸成します。

さらには、誰もが多様性を認め、尊重し合うことで、相互に支え合う共生社会の形成を目指します。

■数値目標

項目	基準値(R5末)	目標値(R11)
年間出生者数の各年対前年比5%増	24人 (単年)	30人 (単年)
進学等で村を離れた後に村へ帰って住み続けたいか	43.9% (単年)	60.0% (単年)

① 結婚・出産・子育て支援

具体的な施策	
(1) 出会いの場づくり	(2) 安心して出産し、子育てできる環境づくり

② 教育の充実・環境の整備

具体的な施策		
(1) 特色ある教育の推進	(2) 教育環境の整備	(3) 学校と地域の連携

③ 共生する村づくりの支援

具体的な施策	
(1) 高齢者、障害者、外国人などが社会参加しやすい環境整備・拡充	(2) 男女が共に活躍できる社会づくり

基本目標2 元気な産業応援プロジェクト



特に農業や製造業などにおいて、従事者の高齢化や後継者不足などが顕著となっていますが、各産業において担い手の確保や、デジタル技術などの活用による生産性・作業効率の向上に取り組みます。

■数値目標

項目	基準値(R5末)	目標値(R11)
遊休農地の再生面積	86a (累計)	100a (累計)
農業生産額	353,431千円 (単年)	380,000円 (単年)
ECサイト売上額	0円 (単年)	1,000,000円 (単年)
起業・創業件数	1件 (累計)	10件 (累計)

① 農業・地場産業の振興と支援

具体的な施策		
(1) 農業経営の強化支援	(2) 魅力ある農業の構築	(3) 地場産業の育成・支援

② 魅力ある産業の創出

具体的な施策	
(1) 起業・創業支援事業	(2) 企業誘致の推進

③ 人材育成支援と稼ぐ力の創出支援

具体的な施策		
(1) 民間事業者や地方創生を担う組織との協働	(2) 地方創生担い手育成支援	(3) 地域資源の魅力発信

基本目標4 元気な村づくりプロジェクト



人口減少により地域活力の低下が懸念される中、デジタル技術の活用などにより、担い手不足を補うとともに、地域における助け合い・支え合いを強化し、活力あふれる村づくりに取り組みます。

また、村単独では解決が困難な課題については、こおりやま広域圏などの周辺自治体や県との連携を進め、広域で課題解決に取り組むとともに関係機関との協力体制を強化し、力強く各種施策を進めます。

■数値目標

項目	基準値(R5末)	目標値(R11)
平均自立期間（要介護2以上）	男性：79.8歳 女性：82.3歳 (単年)	男性：80.0歳 女性：84.0歳 (単年)
玉川村への愛着度調査 (村民アンケート)	中 学 生：89.0% 高校生世代：87.3% 村 民：73.8% (単年)	中 学 生：95.0% 高校生世代：95.0% 村 民：85.0% (単年)
玉川村への定住意向 (村民アンケート)	中 学 生：28.1% 高校生世代：29.1% 村 民：78.9% (単年)	中 学 生：50.0% 高校生世代：50.0% 村 民：85.0% (単年)

① 地域力の強化推進

具体的な施策		
(1) 防災減災の環境づくり	(2) 地域コミュニティ力の強化	(3) 産・学・官・民連携の推進

② スポーツ・健康地域づくりの推進

具体的な施策	
(1) 地域スポーツ資源への支援	(2) みんなに優しい生活環境づくり

③ 持続可能な地域づくり

具体的な施策		
(1) 効率的な行政運営	(2) 広報・広聴活動の充実	(3) 広域連携の推進